

## 歴史に消え去ったシルクロードの文化、風習、民族。 貴重映像のデジタルアーカイブ化が進行中。

シルクロードの経路でもある中央アジア、西アジア地域は、さまざまな民族の興亡があり、今現在は紛争の絶えない地域である。東西美術交流研究センターは、この地域の貴重な映像を後世に残し、自由に研究できるようアーカイブ化する事業を進めている。

### 2010年度は、デジタルデータを1,000点追加。

東西美術交流研究センターの代表である、国立民族学博物館名誉教授の杉村棟さんは、1989年から参加したユネスコのシルクロード学術調査や単独での調査の際に、西アジア、中央アジア、東アジア各地域の文化遺産や民族の暮らしを撮影した。他にも杉村さんが50年間にわたる研究の中で撮り溜めたこの地域の写真をあわせると、およそ25,000点に及ぶ。

これらの写真には、現在は紛争中であることが許されない地域のものや、すでにロシア化されてしまい失われた文化や風習などが納められている。今となってはこの写真でしか見ることができないものもあり、世界的にも民族学的にも貴重な資料である。

しかし、写真は劣化する。また、研究者や学生たちが自由に閲覧するためには、フィルムのままでは使い勝手が悪い。そこで東西美術交流研究センターは、AJOSCの助成を受けて、2009年度からこれらの資料のデジタルアーカイブ化を始めた。緊急性や希少性のあるものから約1,000点の写真がピックアップされ、「シルクロードデジタルアーカイブズ」として、インターネット上で公開されている。2010年度はさらに1,000点の写真がアーカイブ化された。

杉村さんはこれまでの成果を次のように語る。

「点数からいえばまだまだ先の長い事業となりますが、態勢が整ったことで、着実に認知度もあがっていくと期待しています。また、学術的研究だけではなく、文化的啓蒙活

動、観光、広告など利用分野が広がっていくと期待しています」

デジタルデータは学術雑誌、学会誌、論文など、研究や教育目的で使用される場合は無料で利用でき、出版や広告などの商用目的に使用する場合は有料となる。その利益はまたさらなるアーカイブ化への資金となっている。

### 利用者や利用分野を広げて、事業の拡大と継続を図る。

アーカイブデータは公開後、さまざまな分野で使われるようになった。

たとえば、神戸市の白鶴美術館の春季展として開催された「羊からじゅうたん！」公開教室のチラシなどに、アーカイブ化された写真が使用された。また、研究機関や出版社からの問い合わせもきている。



「シルクロード デジタル アーカイブズ」のホームページ



貴重な写真が数多くアーカイブ化された

「公開後、全国紙から取材を受けるなど反響もありましたが、まだ認知度が高いとは言えません。もっと幅広くこのデータの存在を知らしめて、多くのユーザーに利用してもらう必要があると思っています。それによって、AJOSCの助成でスタートしたこの事業の拡大と継続を図っていきたくと考えています」と杉村さんは語る。

トルコやイラク、コーカサス地方、トルクメニスタンなどの地域は、日本ではなじみの少ない地域ではあるが、日本との結びつきはたいへん深い。例えば、ペルシアやオリエントの絵画に見られる女性像の祖形が、東へ伝わり美しい観音菩薩に姿を変えたとする見解もあると杉村さんは話す。日本は今画像ブームだが、こうした情報を含めて各方面にアピールしていけば、利用分野はたくさんあるというのが杉村さんの主張だ。


また、一方で研究データとして保存するのであれば、もっと細分化したインデックスをつけて検索できる機能と解説をつけて欲しいという要望も寄せられている。

写真の1点、1点にキャプション的な解説をつけてい



ユネスコ・シルクロード総合調査時に撮影した「羊毛を梳く少女」

担当者より



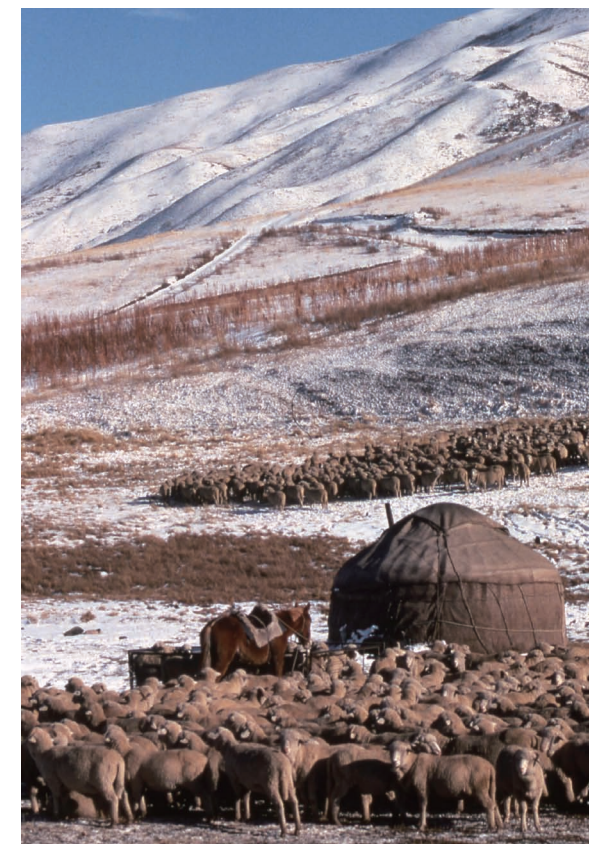
**AJOSCの  
視野の広い助成に  
感謝いたします。**

東西美術交流研究センター  
代表  
杉村棟さん

これまでのところ、日本と西・中央アジアの交流はやや弱い点もあり、学術的にも、経済的にも顧みられることが少ない地域でもあり、この事業は難航しておりました。しかし、必ず今後は重要な交流先となります。AJOSCの視野の広い助成に感謝しております。

くとなると、撮影者である杉村さんにしかできない。

「私の目の黒いうちに着手できたことは幸いでしたが、アーカイブスが完成をみるまでにはまだまだ時間がかかります。この事業を通じて知り合った若い研究者たちが後を継いでくれることも期待しています」。それが杉村さんの今の願いである。



南下するキルギスの遊牧民